

地域とともにある学校 地域とともにある教育委員会

地域の
特色ある
活動

香川県高松市教育委員会

1 はじめに

香川県の県庁所在地である本市は、平成11年4月に中核市に移行し、その後、近隣5町と合併し、人口約42万人を擁する四国の中枢管理都市として発展を遂げてきている。「文化の風かおり 光りかがやく 瀬戸の都・高松」を目指し、それぞれの地域の特徴を生かした、都市的利便性と自然的環境が享受できる都市の実現に向け、本市にふさわしい、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めている。

現在、市立幼稚園24園、こども園6園、小学校49校2分校、中学校23校1分校、高等学校1校において、本市の教育に関する「大綱」の基本理念である「確かな学力と豊かな心をはぐくみ 夢にむかってたくましく生きる人づくり」を目指し、地域とともにある学校づくりに各種施策を推進している。

2 子供の成長を願う六つの活動

本市の子供たちや、学校の現状を分析し、共通の課題を明らかにし、全市立小中学校（幼稚園・高等学校は一部実施）で、その多くが地域の協力を得ながら、取り組んでいる活動である。

●個別の補充学習「マイ・スタディ」

子供一人一人の理解や習熟の程度に応じた指導を充実し、放課後の時間帯等を活用し、週行事予定に位置付けるなどして、定期的に取り組んでいる。保護者や地域の方にも協力を得たり、質問教室と自習を組み合わせたり極少人数の補充学習などを実施している。

●スマイルあいさつ運動

幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の諸団体の方などが参加し、学校種を越えて登校

時のあいさつ運動や声を掛け合うことを通して、「節度ある生活習慣」「礼儀」「感謝」等豊かな心を育むこと、学校・家庭・地域社会を明るく元気にしていくことをめざしている。



中学生によるあいさつ運動

●掃除教育「びかびかデー」

保護者や地域の諸団体の方々とともに、学校・園や地域各所の清掃活動に取り組むことを通して、清掃の手順の学習や礼儀作法等の望ましい行動様式の獲得、他人を思いやる心や社会貢献の精神の育成、規範意識の育成を行っている。

●菊池寛及びその作品から学ぶ「寛学」

郷土の偉大な作家である菊池寛の生き方に触れ、その作品を読み親しむ活動を一斉読書活動で行ったり、朗読劇の出前講座の鑑賞を通し

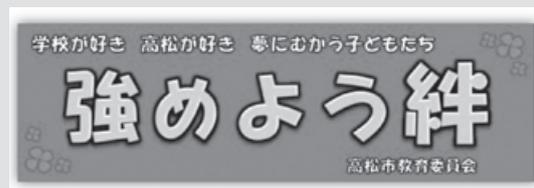


菊池寛作品集小・中学校版

て、自己の生き方を考え、自らの夢を描き、高い志へつなげる機会としている。

●「強めよう絆」月間

いじめのない明るく活力のある学校にするために、児童会・生徒会を中心とした子供たちの主体的活動を重視し、自らいじめをしない、させない、許さない風土づくりに努めて



各学校に配布した横断幕

いる。また、学校・家庭・地域が協力し、人権尊重の精神を育てることを目的とした、地域・学校行事、なかまづくりや自己実現を図る取組等を行っている。

●マイ・ランチ（弁当づくり）の日

小・中学校で、子供たちの「食」に関する指導を充実するために、食に関する年間指導計画の中に、栄養教諭の指導のもと、子供たちが学年段階に合わせて自分で弁当を献立したり、盛り付けたり、作ったりして、みんな



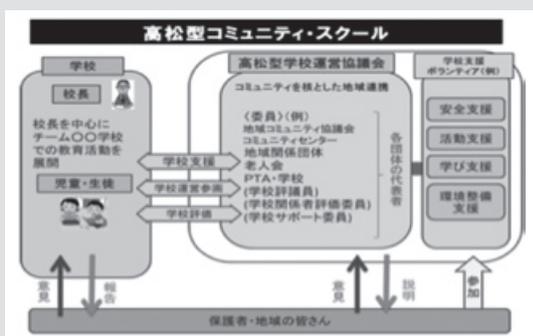
私の弁当、ぼくの弁当

で食べる日を計画的に設けている。

3 高松型コミュニティ・スクール

これまでの学校評議員会及び学校関係者評価委員会に替えて、小・中学校ごとに高松型学校運営協議会を設置し、学校運営に関して、高松市教育委員会及び校長の権限と責任のもと、保護者及び地域コミュニティ協議会を中心とする地域住民の学校運営の参画の促進や連携強化を進めている。

学校運営協議会を核とする高松型コミュニティ・スクールでは、学校支援、学校運営参画、学校評価等を実施することにより、学校と保護者、地域住民等の信頼関係を深め、一体となった学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んでいる。



4 「教育フォーラム in 高松」の開催

子供たちが成人して活躍する新しい社会は、より少子高齢化が進むとともに、グローバル化の進展や人工知能の発達など、技術革新が進み、先行き不透明で、厳しい挑戦の時代になるとも言われている。

そのような時代を、子供たちが自ら人生を

切り拓き、たくましく生き抜くためには、学校における主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善はもとより、家庭や学校、地域が連携し、一体となった取組が肝要であり、そうした体制づくりを進め、それを市民にアピールしていくことが、教育委員会の責務である。

昨年2月に本市の総合教育センターを会場にして開催した第1回「教育フォーラム in 高松」は、サブテーマを「体験！これからの高松の教育」として、子供たちを中心に、保護者や教員、地域の方々など、様々な立場の人たちが一堂に会し、共にこれからの本市の教育を考える機会とすることを意図して実施した。当日は、ロボット Sota 君とともに教育長が開会宣言（写真・上）を行った後、「AIと人が啓く新しい未来の可能性」と題する記念講演や、本市唯一の高等学校生徒と市立小中学校教員によるパネル討議（写真・下）、プログラミングや小学校における英語教育、ものづくり等、教育委員会各課などが設けた各種のブースでの体験活動やパネル展示などを通し、連携の時代における本市のこれからの学校教育や生涯教育、人権教育等の在り方について理解を深めていった。来年2月に第2回の開催を予定している。



5 おわりに

地域コミュニティが徐々に希薄化している昨今、その再生には学校の役割が重要である。また、公民としての意識を豊かにもった健やかな子供の成長には地域コミュニティの活用は不可欠であり、そうしたことから、今後の教育行政は、地域と学校が双方向に高め、充実していくための施策の実践が急がれる。



教育長
藤本泰雄